

たばこと塩の博物館 開館40周年記念特別展 産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で

2018年11月3日（土・祝）～2019年1月14日（月・祝）開催！

ウィーン万国博覧会を契機に近代化を遂げた日本の姿を伝える資料約100点を紹介

たばこと塩の博物館では、開館40周年を記念して、2018年11月3日（土・祝）から2019年1月14日（月・祝）まで、「産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会」展を開催します。

明治6年（1873）にオーストリア・ウィーンで開催された万国博覧会は、近代化を目指す明治政府が国家として初めて公式に参加した万国博覧会でした。

日本の文化・技術を世界に示すとともに、欧米の技術を学ぶ機会と捉えた明治政府の博覧会への意気込みは、残されている準備段階の資料群からも感じることができます。日本からの出品物は、各種工芸品や皮革、和紙、染織、家屋の雛形、人形、生活具、農具、楽器、庭園など多岐にわたっていて、大きな反響を呼びました。また、西欧の最先端の技術を学ぶために派遣された多くの技術者は、後に様々な産業に寄与することとなりました。博覧会後の日本は、輸出産業の育成に力を注ぐとともに、国際ルールに則った特許や商標登録制度などを整備していきました。このように、ウィーン万国博覧会は、日本の産業の近代化に大きな役割を果たしました。

本展では、「ウィーン万国博覧会への参加準備のようす」「ウィーン万国博覧会での実際の展示」「ウィーン万国博覧会後に日本がどう変化していったか」の3つの時期に分けて、ウィーン万国博覧会への参加が日本にもたらしたものををご紹介します。

合わせて、日本の芸術に大きな影響を受けた世紀末ウィーンの画家グスタフ・クリムトの習作2点を特別展示します。

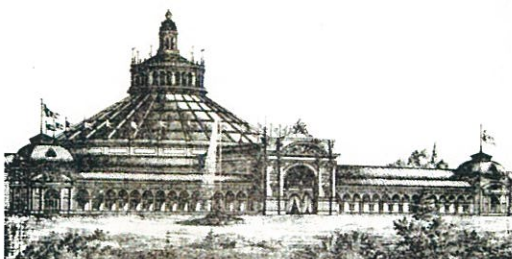


Photo.01

ウィーン万博のシンボルとなったパビリオン・ロトゥンデ
「奥国博覧会参同記要」より（東京大学経済学部資料室蔵）

【展示の構成と作品紹介】→ 別紙 1

【展示関連イベント】→ 別紙 2

「産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会」開催概要

名 称：産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会（サンギョウノセイキノマクアケ ウィーンバンコクハクランカイ）

会 期：2018年11月3日（土・祝）～2019年1月14日（月・祝）

主 催：たばこと塩の博物館

後 援：オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム、明治150年記念事業

会 場：たばこと塩の博物館 2階特別展示室、3階コレクションギャラリー

所在地：東京都墨田区横川 1-16-3（とうきょうスカイツリー駅から徒歩8分）

電 話：03-3622-8801／FAX：03-3622-8807／URL <https://www.jti.co.jp/Culture/museum/>

観覧料：大人・大学生：300円（150円）／満65歳以上の方（要証明書）：150円（100円）

小・中・高校生：100円（50円） ※（ ）内は20名以上の団体料金

開館時間：午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

休館日：月曜日（ただし、12/24、1/14は開館）、12月25日（火）、12月29日（土）～1月3日（木）

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：褓地（ほろち）由美子

E-mail：horochi@tsmuseum.jp

1、ウィーン万国博覧会への参加準備と湯島の博覧会

明治4年（1871）9月、日本政府はウィーン万国博覧会への参加を決定し、翌年の明治5年（1872）からは、博覧会の告知、博覧会事務局の設置、博覧会御用掛の任命、各地からの物産調書・出品物の収集、予算の計上などを行なっていました。明治4年9月には、日本の天産物（鉱物や水産物、植物、動物など）の収集と古器旧物（歴史的な資料）の保存を目的に文部省博物館が設置されましたが、万博への参加決定によって、より一層各地から出品物が寄せられるようになり、博物館の資料も充実していききました。翌年の明治5年には、湯島聖堂の大成殿を会場として大規模な博覧会も開催され、好評を博しました。

このコーナーでは、ウィーン万博への出品の呼びかけを示す文書や、湯島聖堂での博覧会を描いた浮世絵などを展示し、「ウィーン万国博覧会への参加準備のようす」を紹介します。

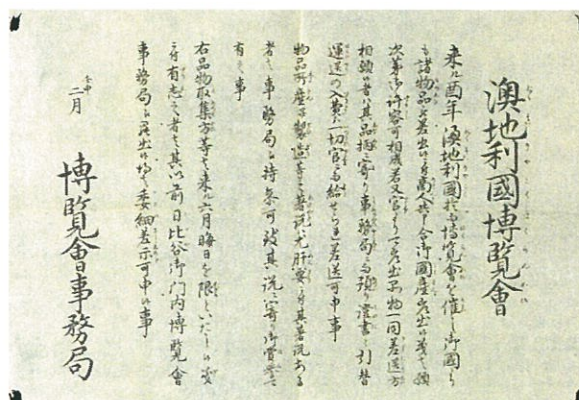


Photo.02

壬申二月澳地利国博覧会出品呼びかけ
明治5年〔1872〕（渋沢史料館蔵）

博覧会事務局から全国へ、ウィーン万国博覧会への出品が呼びかけられた。



Photo.03

「古今珍物集覧 元昌平坂聖堂ニ於て」
二代歌川国輝 明治5年〔1872〕（個人蔵）

湯島聖堂での博覧会の展示物が並べて描かれている。絵画、武具、衣装、楽器、鳥類、魚類など、多岐にわたる分野の「古今珍物」が集められたことがわかる。



Photo.04

「博覧会諸人群集之図 元昌平坂ニ於テ」
昇斎一景 明治5年〔1872〕（個人蔵）

湯島聖堂で行われた博覧会に人々が詰めかけた様子が描かれている。ウィーン万博に出展された名古屋城の金鯱が湯島でも展示されていることがわかる。

2、ウィーン万国博覧会 日本の出品物

日本からの出品物は、皮革、和紙、染織、家屋の雛形、人形、生活具、農具、楽器、さらには庭園など多岐にわたり、教育、日常生活、科学、各産業、農業、軍隊などについても紹介されました。さらに、名古屋城の金鯱、鎌倉大仏の張子、二間（約3.5m）の大提灯など、制作技術の高さを伝える大型のものも出品されました。日本館の出品物や土産物は、ヨーロッパの人々に大変好評で、それはやがてヨーロッパでの日本趣味＝ジャポニスムにもつながっていきます。

このコーナーでは、ウィーン万国博覧会で実際に展示された日本からの出品物の数々をご紹介します。



Photo.05

染付御所車蒔絵大花瓶
(有田ポーセリンパーク蔵)

約200cm (六尺二寸) ある大きな花瓶は、博覧会の日本館内部を撮影した写真にも写っている。会場でも存在感のある出品物であったことがうかがえる。



Photo.06

金属製灯籠 ©Sandro E. E. Zanzinger
(レオポルトシュタット地区博物館蔵)



Photo.07

木製人形
(ウィーン大学東アジア研究所日本学科蔵)



Photo.08

©Sandro E. E. Zanzinger
シガーリングのコラージュによるロトゥンデ
(JTIオーストリアコレクション)

シガーリングを貼り合わせて博覧会のシンボルパビリオンであるロトゥンデを形づくっている作品。



Photo.09

装飾メアシャムパイプ
(JTIオーストリアコレクション)

豪華に装飾されたゴシック建築の塔の形をしているメアシャムパイプ。ウィーン万国博覧会のために制作された。

©Pedro Salvatore



Photo.10

©Pedro Salvatore
装飾メアシャムパイプ
(JTIオーストリアコレクション)

アジア、オーストラリア、アメリカ、アフリカの4つの大陸を具現化した4人の人物が担ぐ地球の上に、ヨーロッパを具現化した女性が、芸術と科学の指導者として君臨するかのよう表現されている。



Photo.11

記念カード
(レオポルトシュタット地区博物館蔵)

各パビリオンなどの写真をカードにした土産物。日本庭園を写している。

©Sandro E. E. Zanzinger

3、ウィーン万国博覧会後の日本

ウィーン万国博覧会では、日本の豊かさと技術力の高さを世界にアピールすることに成功しました。特に工芸品の分野の評判は高く、輸出産業として発展させるための組織づくりや製作技術の見直しが模索され、そこでは万博に派遣された技術伝習生たちが貢献しました。また、国内産業の育成や在来産業の技術改良には、技術や商品の品質を競う国内での博覧会の開催やその基礎となる博物館が必要だと認識するようになりました。この動きはやがて、内国勸業博覧会の開催、さらには博物館の設立へと繋がりました。

展示では、「ウィーン万国博覧会後に日本がどのように変化していったか」を示す、報告書や工芸品、内国勸業博覧会の様子が描かれた浮世絵などの資料を展示します。

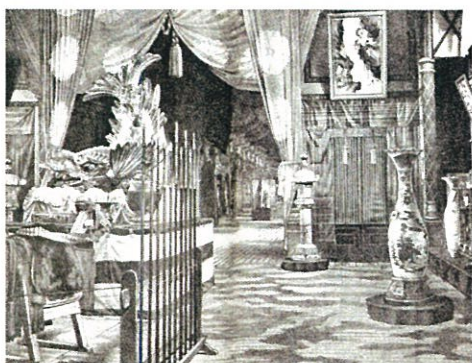


Photo.12 「奥国博覧会参同記要」
明治30年〔1897〕8月
(東京大学経済学部資料室蔵)

ウィーン万博への参加経緯のほか、ウィーン万博の会場や日本館を描いた銅版画なども収録された報告書。



Photo.13 旭焼 釉下彩山水図皿
(東京工業大学博物館蔵)

ウィーン万博参加時に顧問として活躍したゴットフリード・ワグネルが開発した釉下彩陶器。



Photo.14
「大日本内国勸業博覧会製糸器械之図」
二代歌川国明画 明治10年〔1877〕 (個人蔵)

内国勸業博覧会では製糸器械の実演などが見学でき、人気を集めた。

特別展示 クリムト作品

ウィーンやパリなどで開催された万博で日本の美術工芸品や浮世絵が展示されるようになると、ヨーロッパに日本趣味＝ジャポニズムが広まっていきました。本展では、日本の芸術から大きな影響を受けた世紀末ウィーンの画家グスタフ・クリムトの習作2点を特別展示します。



Photo.15
「キモノを着た女」
(油彩画「リア・ムンクの肖像Ⅲ」のための習作)
1917-1918年 (個人蔵)



Photo.16
「毛皮をまとった婦人」
(油彩画「毛長イタチの毛皮」のための習作)
1917年 個人蔵

展示関連イベント

【展示関連講演会】 定員：90名 当日整理券制 会場：3階視聴覚ホール

2018年11月11日（日）

「クリムトのウィーン」

講師：新藤真知（日本パウル・クレール協会代表）

2018年11月18日（日）

「渋谷栄一とウィーン万博」

講師：井上潤（渋谷史料館館長）

2018年11月23日（金・祝）

「博覧会と明治の日本」

講師：國雄行（首都大学東京教授）

【特別映画上映会】 定員：90名 当日整理券制 会場：3階視聴覚ホール

2018年12月2日（日）、2019年1月6日（日）

「たそがれの維納（ウィーン）」

（1934年制作、監督：ヴィリ・フォルスト、上映時間99分）

2018年12月9日（日）、2019年1月13日（日）

「第三の男」

（1949年制作、監督：キャロル・リード、上映時間100分）

※展示関連講演会、特別映画上映はいずれも午後2時から開催。

※参加には、常設展示のみご覧いただける入館料（一般・大学生100円/満65歳以上・小中高生50円）、または本展観覧料が必要です。

※当日開館時より整理券を1名につき2枚まで配布します（配布時に人数分の入館料または本展観覧料をいただきます）。

返信用シート

(「産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会」展画像希望)

たばこと塩の博物館 広報担当 裊地宛

FAX : 03-3622-8807

E-mail : horochi@tsmuseum.jp

「産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会」展プレスリリースに掲載している画像16点を広報素材としてご提供します。必要事項をご記入のうえ、FAXかメールでご返送いただければ、ご希望の画像 (jpeg) をメールでお送りします。

■広報用画像

チェック欄	画像No	キャプション・クレジット
☐	Photo.01	澳国博覧会参同記要 (東京大学経済学部資料室蔵)
☐	Photo.02	壬申二月澳地利国博覧会出品呼びかけ (渋沢史料館蔵)
☐	Photo.03	古今珍物集覧 元昌平坂聖堂ニ於て (個人蔵)
☐	Photo.04	博覧会諸人群集之図 元昌平坂ニ於テ (個人蔵)
☐	Photo.05	染付御所車蒔絵大花瓶 (有田ポーセリンパーク蔵)
☐	Photo.06	金属製灯籠 (レオポルトシュタット地区博物館蔵) ©Sandro E. E. Zanzinger
☐	Photo.07	木製人形 (ウィーン大学東アジア研究所日本学科蔵)
☐	Photo.08	シガーリングのコラージュによるロトゥンデ (JTIオーストリアコレクション) ©Sandro E. E. Zanzinger
☐	Photo.09	装飾メアシャムパイプ (JTIオーストリアコレクション) ©Pedro Salvadore
☐	Photo.10	装飾メアシャムパイプ (JTIオーストリアコレクション) ©Pedro Salvadore
☐	Photo.11	記念カード (レオポルトシュタット地区博物館蔵) ©Sandro E. E. Zanzinger
☐	Photo.12	澳国博覧会参同記要 (東京大学経済学部資料室蔵)
☐	Photo.13	旭焼 釉下彩山水図皿 (東京工業大学博物館蔵)
☐	Photo.14	大日本内国勸業博覧会製糸器械之図 (個人蔵)
☐	Photo.15	キモノを着た女 グスタフ・クリムト (個人蔵)
☐	Photo.16	毛皮をまとった婦人 グスタフ・クリムト (個人蔵)

■貴媒体について

貴社名 :	ご担当者名 :
ご連絡先 TEL : FAX :	e-mail :
媒体名 :	掲載予定日 (号) :